

平方北小学校再編に係る説明会（地域住民向け）

日 時	令和 8 年 7 月 2 5 日（土）10：30～12：00
場 所	平方北小学校体育館
参加人数	2 2 人
意見・要望等	
参 加 者 (小敷谷東部住民)	2 点あって、7 月 12 日と 14 日に現役の保護者と未就学児の保護者に対しての説明会の内容っていうのは伝えていただいたんですけど、参加の人数ってどのくらいだったのでしょうか。それが 1 点です。2 点目は今回の中身にはなかったんですけど、学童についてです。今の学童って特に平方地区は平方東小も大規模化で学校を間借りしたり、2 ヶ所でやっていたりと、今聞いたら平方小は指導員が少なく、途中で入ったりはできないっていうのも聞いたんですけど、再編にあたってその学童の区割りとか、再編の状況はどう考えているのか、その 2 点教えてください。
新しい学校 づくり推進 室長	1 点目のご質問の現役保護者、未就学児保護者の出席者ですが、すみません今手元に資料がなく申し訳ございませんが、合計で 20 数名だったと記憶しております。2 点目の学童の方なんですけれども、学校の再編といえども学童の整備も整って一つのパッケージという認識でおりますので、もし統合となった場合でも学童の方も責任をもって整備をしていきたいと考えているところでございます。
参 加 者 (小敷谷東部住民)	そういった情報も伝えていただきたかったです。今回全くそういったお話がなかったの。
新しい学校 づくり推進 室長	今ご意見承りましたので、そちらも貴重なご意見ということで検討させていただきます。
参 加 者 (上野住民)	この素案について反対の立場でいろいろ質問がありますのでよろしく願います。 第 1 点は地域説明会の実施なんですけど、これは 4 年前に 33 校を 22 校にするときに 1 回行われましたよね、地域説明会。それから 1 回もやられていないんですよ。これどうしてなんですか。いろいろ要望を出してたんですけどね、今度 3 校をなくすって

	う廃校にするって計画が出たときに、再編検討協議会を設ける、平方北小、私いつも傍聴してたんですけど、発言や質問の機会がない、聞きたいことがいっぱいあったんですけど、出せないんですよね。ようやくできたことは良かったんです。私、教育委員会に請願出しまして、それが通りました、地域説明会をやることになり、今やってるからいいんですけど、どうしてこれができなかったのか、その理由を明確に教えてください。 2 番目に質問するわけなんですけど、単学級はね、やはりクラス替えができないとか、デメリットが多いということで、何とかこれを変えようっていう計画なんですけど、今までも単学級ってあったんですね。平方東小や上平北小みたいに。そこも単学級だったんですよね。そのときはこういう状況じゃなくて、何で今回こういうふうに出てきたのか、その状況、理由を説明してほしいと思います。 3 つ目は、平方北小が今の 6 クラス単学級で、私は上野地区なので、平方小は普通学級が 8 クラスなんです。平方小もみんな単学級になったら廃校になるのかなとか、そういう心配もあるわけですよ。じゃあ 33 校を 30 校にするっていう計画なんですけど、これはこれで終わりなんですか、もっと続くんですか。そういう全体的な上尾市の教育の方向について、その方がやっぱりちゃんと出されてないと、この 3 つだけが我慢すればいいのか、我慢って言ったら変ですけど、しょうがないってするのか、そういう全体的なものが見えないんです。そういうことをやっぱり出して欲しいと思います。今、回答ができないなら、次回もう 1 回こういう説明会をやってほしいと思います。私たちは再編検討協議会には、傍聴ですからね、質問する、発言する権利がありませんので、やっぱりこういう対話ができる地域説明会を必ずやってほしいと思います。 それからもう 1 点ですね。今 1 番大事なのは子どもたち、平方北小の子どもたちの意見、気持ちをしっかり聞いて行われたのか、どうかということです。子どもの権利条約なんかでも、子どもの意見表明権ってありますよね。自分の学校はどうなるんだと。廃校になるんだ、どうするっていう、本当はそれを聞いて欲しいけど、私傍聴してましたけど、それは決まってからやりましょうとなっており、やってないんですよ。これしっかりやってほしいと思います。これは要望になりますけどね。
--	--

	今回答できないときは、また次回説明お願いしたいと思います。 以上です。
司 会	質問の意図を確認したいのでお伺いしたいんですけど、4年前の説明会というのは学校施設更新計画の改定前の説明会ということ でよろしかったでしょうか。
参 加 者 (上野住民)	そうです。その時に地域説明会が各地区で行われましたよね。その 時からやってないんです。こういう形のものが。そういうこと です。
司 会	ということが1点と、今まで上平北小や他の学校でも単学級があ ったというのは、すべての学年で1学級だったということによ ろしいですか。
参 加 者 (上野住民)	そうです。そういう時期がありました。
司 会	ありがとうございます。先ほどの4年前の説明会から説明会が ないというのが1点と、今までも全学年で単学級になったことが あったにもかかわらずそちらを対応していないのはなぜかとい うことが1点と、33校を30校にするというのは学校施設更新計 画上、再編検討の対象となっている3校を指しているということ でよろしいですか。
参 加 者 (上野住民)	それから先がどうなるんですか。それで終わっちゃうのか、もっ と続くのかってことです。
司 会	あとは子どもたちに意見を聞いて欲しいというご意見というこ とですね。
参 加 者 (上野住民)	要望になります。
新しい学校 づくり推進	1点目の4年前に行われた意見聴取から今現在のこの時点まで 説明会が開かれなかったということについてでございますけれ

室長	ども、4年前に説明会を行いまして、学校施設更新計画の改定を行いまして、具体的に説明会を開く準備ということで、再編検討協議会ですとか、今回のような素案をお出しするまでに時間を要するといえますか、そのような準備を進めていたというところがございます。今回方向性の素案をお示しできる状態になりましたので、この段階で説明会を開かせていただいたというところがございます。 2点目の方ですね、これまでも単学級はあったのではないかといいところがございますけれども、先ほどの繰り返しになりますけど、学校施設更新計画策定の中で今後単学級をどうしていくかというところを定めておりますので、更新計画自体は令和5年度に定まったことによって、今回の平方北小学校、予定ですと今年度大石南中学校が再編検討協議会の条例が設置されておりますので、それを踏まえて進めているというところがございます。 今後の全体的な方向性、平方小学校も単学級になってしまうのではないかといいところがございますけれども、これも同じく計画の中で1学年1学級、単学級の状態が5年以上継続することが認められた場合は再編検討協議会によって今後の再編を検討していくという定めがありますので、それに沿いまして、もしも今後新たな単学級の小学校ですとか、中学校ですと8学級以下の学校が発生した場合は、まずは再編の検討を進めていくということになると思います。以上でございます。
参 加 者 (上野住民)	子どもたちの意見を聞いてほしいと要望をしたのですが。
新しい学校 づくり推進 室長	再編検討協議会のときも傍聴していただいたというところですが、もちろん子どもたちの意見を聞くというのは大切なことだと思いますが、現段階の再編決定前の段階ですと、子どもたちに心理的な、余計なプレッシャーを与えてしまう可能性がございます。逆に再編については大人の責任、教育委員会の責任で決定していくという考えで今現在いるところがございます。
参 加 者 (新田住民)	在校生と兄弟姉妹の特例措置の検討というところで小学校の選択での指定校以外でも、距離の近い学校を選択可能というふうにあるんですけども、距離の近い学校しか選択できないんですか。

	例えば平方小が近いけど、若干平方東小にも通えそうな距離感であるという場合は、例えば平方東小を選択できないのかっていうところを確認させていただきたいです。 あともう1点ですね。実施時期のスライドで計画の1点目、5年目っていうのがあるんですけども、具体的に令和何年度が開始するタイミングか、今の段階での再編の時期っていうのを具体的に、5年目とかだとちょっとわかりづらいので、年度で教えていただきたいと思います。
司 会	選択校の範囲と、再編は年度でいうと何年くらいかというところを確認したいということでよろしいですか。ありがとうございます。
新しい学校 づくり推進 室長	1点目の指定校と選択校の近い学校というところでございますけれども、今再編検討協議会の方でいただいた意見をもとに方向性の素案ということで、このようなものがないのではないかと作成した段階なんですけれども、今回まさに意見聴取という場ですので、いただいたご意見は検討いたしまして、教育委員会その後通学区域審議会に諮問の方で、ご意見をふまえて検討の方は進めさせていただきたいと思います。あくまでまだ決定ではないというところだけご理解いただければと思います。 2点目の再編の時期についてですね、こちら先ほどの言葉と重複してしまうところがありますが、今現在再編自体は決定しておらず、再編の方向性のご意見をいただいているという段階ですので、こちらの表で5年目といいますと令和12年度くらいになるのかなと思います。あくまで今現在の再編が決定していないというところと今後通学区域審議会でも審議がどれだけ要するのかなど、非常に不確定なところが多いものですから、あくまで今現在の目安と捉えていただければと思います。
参 加 者 (新田住民)	再編はまだ決定していないんですか。平方北小が何校かに分散されるということは決まってるのかなと思ったんですけど、それ自体まだ決まってないんですか。
新しい学校 づくり推進	再編検討協議会を行いましてそれらのご意見をもとに方向性の素案ということで先ほどお示しさせてもらった3つに分かれる

室長	という案をお示しはしたんですけど、再編自体は決まっている状態ではないです。ですのでその案をもとに選択できる学校がもうちょっとあった方がいいですとか、そのようなご意見をいただく場としての時間をいただいているところです。
参 加 者 (瓦葺住民)	尾山台小の近くに居住しております。今日伺ったのは、今まだ決まっていないですっていうお話もあったんですけど、この素案に対して提案や意見のある方はぜひどうぞということだったので、実は平方北小だけではなくて尾山台小と大石南中と3つの学校が名指しで挙げられていて、再編の対象にしていきますよって言われているんですね。尾山台小の地域でもずっと話し合いをしてきまして、ここがどういうふうに変わるかということが、すごく大きく影響してくるので、ぜひ意見を持っていきたいということで今日参加させていただきました。すごく説明の中で矛盾を感じるのは、ちっちゃい学校にもメリットもあるし、デメリットもあるということですよね。地域の保護者の方はなんて言ったかっていうと、以前教育委員会がとったアンケートでは、3分の2の方が、メリットの方が大きいと答えてる。にも関わらず、なぜデメリットが大きいのでっていうのか。先ほどの説明でいくとね、クラス替えができないからいじめなんかあったときに、その人たちが来れなくなってしまう、そういうことがあるからっていうお話なんですけれど。今上尾市の中でいじめ重大事件って新聞にこの前出ましたよね、2回ね。本当に大きな問題で、学校に来れなくなっちゃったという子たちが出てるといって重大事件が7件も起こっているんですけども、小さい学校じゃないんですよ。いろいろ聞いてみると。むしろ大きい学校です。大きい学校で話を聞くと、職員全部が一緒になってあたるべきことができなくて少数の先生がやらざるを得なくなったりとかね。大きい学校の問題は、そういうふう言われていて、尾山台小の地域の中でも話したときに、なんでちっちゃい学校じゃいけないのかって理由がわかりませんという声が大多数。先ほども懸念がいっぱいあるので、実際に学校廃校にして分かれるってことをやったら、子どもたちが大変なところに追い込まれるっていう感じがあるんです。今ある尾山台小なんかでは、僕たちの学校の自慢はって子どもに聞いたらね、いやうちの学校は人数少ないので低学年から高学年まで全部仲良しですっていうのが学校の一番の自慢として出

てくるようなそういう学校です。それを何でなくさなきゃいけないのかっていうのがわからないっていうのがね、地域の声なんです。あくまでも決めた規模、学びに望ましい規模である 9 から 18 に合わないからって言ってるんだけど、18 学級を超えた学校については問題にしないですよ。何で問題にならないんですか。それが 1 つ。学びに望ましいといってるかな、12 から 18 で、これ上尾市が勝手に決めた基準ですよ。文科省はそういうふうには言ってません。それを確かめてきました。なぜ小さい学校ではいけないのか、理由の 1 つである学級替えができないからってというのは、それが学校をなくすっていうことに繋がるほどの大きなことなんですか。学校をなくすんですよ。尾山台の中でやっぱりものすごく問題になってるのは、学校をなくさなきゃっていうことを再編と言っていますけど、もうなくすことを前提みたいな議論されていてね、さっき言ったように、他の学校から子どもを呼んでも 10 学級にはなるけど 12 学級、上尾市が言っている学びに望ましいというのかな、というのに当たらないからっていうんで、それはアウトして考えないことにしたわけですよ。学級替えができないから駄目だって言いながら、じゃあ他の学校からきて通学区域を見直してやったらどうですかは、10 学級にしかならないから駄目ですって、それは蹴ったわけですよ。そうですよ。大石や何かの地域も含めて全体的に通学区域を見直すっていうことについて、なんだろう。もう一度言います。ちっちゃい学校ではなぜ駄目なんですか。学校をなくすっていう大きい、子どもにとってもものすごく大きい、地域にとってもすごい大きいことをしなければならない程、その問題は大きいんですか。もっと言いたいのは、地域でやっぱり問題になっているのはその学校をなくして、他の学校に行けば、子どもたちにとって何が良くなるかは、全然わからない。それが 1 番問題になってます。何が良くなるんですか、この素案で。子どもたちにとってどういう、例えばね、先生が沢山いてもっと丁寧ないろいろな教えてくれるとか、相談やなんかについてくれる体制が今よりもっと取れますよとか、そういうことができるっていうならわかりますよ。その保障が全然なくて、むしろ逆じゃないかって言われるような中で、子どもたちにとってどんないいことがあるんですか。そこをぜひ、聞かせいただきたい。地域の方はぜひそういうことを聞いてきてほしいと言っていました。

司 会	小さい学校をなくす程の理由がちゃんとあるのかということが聞きたいということですか。
参 加 者 (瓦葺住民)	そうです。それが1つです。なくして、大きい学校に分けたら何が良くなるんですか。
新しい学校 づくり推進 室長	教育委員会といたしましてはご説明でありました通り、メリットデメリットを比較した場合のデメリットの方が大きいという、クラス替えができないですとか切磋琢磨ができない、社会性を身に付けるためには一定規模の子どもの数が必要だということの考えとして、統廃合も含めて検討が必要なほど大きな問題、解決をしなければならない課題だという認識であるというところが教育委員会としての考えでございます。
参 加 者 (瓦葺住民)	先ほどお話があったように、学校施設再編計画っていうんですか、それができたところで問題になってきたわけですね。適正規模とかいうことで。その前は小さい学校は全く問題になってなかったんですよね、さっき質問があった通り。小さい規模の学校のデメリット、クラス替えができないとかっていうデメリットがあるって言うてるのは、推進計画の中だけですか。親御さんからはそうでなくて、6割の方が、ちっちゃい方がメリット大きいよっていう声があったって聞いているんですけど、そのところはどうか。
司 会	学校施設更新計画のできる前は、適正規模とかの基準については問題なかったという認識でよかったかというところと、実際アンケートの中では6割くらいは小規模でもメリットを感じると、ちなみにそのアンケートというのは平方北小の保護者に聞いたアンケートでよろしいですか。ではそこについてお願いします。
新しい学校 づくり推進 室長	おっしゃった通り、アンケートについてデメリットが少ないというアンケート結果は当然認識しております。同様にそのアンケートの中で再編が必要ないですとか、再編によるメリットがないという回答が、再編する必要がないというご意見というのも極めて少なかったという認識もしております。

司 会	アンケートで小規模校のメリットを感じているところであるけれども、再編についてデメリットも感じているというご意見もまた少ないという状況であったというところですね。
新しい学校 づくり推進 室長	再編検討協議会の方におきまして、やはり再編は必要であるというところ、冒頭で先ほどご紹介をさせていただきましたけれども、現役保護者の方からも 1 クラス 10 人しかいない小規模では、あまりにも少なすぎるというようなご意見もあったところでございます。
司 会	補足ですが、小規模校についてというところなんですけども、1 学級 30 人前後のクラスが 1 つしかないことと、1 学級 10 人しかないこととというのは全然深刻さが違うという意見があったということです。
参 加 者 (小泉住民)	上尾市の小泉に住んでおります。元教員で平方北小学校にも勤務しておりました。大変懐かしくこの体育館に入った次第ですけれども、先ほど 3 番の中で説明の中で私ちょっと違和感を感じたんですけれども、再編検討協議会の 9 回の協議の中で、この学校規模の適正化が必要であるという結論に至ったっていうふうにおっしゃいましたよね、説明されました。私これはちょっと違うんじゃないかなと思うんです。この再編検討協議会、私も 9 回のうち、ほぼ傍聴しておまして、実際には傍聴になるという意見が言えないので、皆さんの発言の様子、その空気を肌で感じたわけなんですけれども、この上尾市が最初に冒頭から説明しているこの 12 学級以上 18 学級以下というこの適正化に向けてという数字があって、再編検討協議会の委員さんの中にも、これはどこで決めてるんですか、この数字、これがもう決まりなんですか、大前提なんですかっていう質問も出てたんですよ。今、質問の方もおっしゃったように、これはもう上尾市独自で決めているものであってっていうことで、ここに国のどうのこうのってありましたけれども、決してこういう縛りはないということもわかっているものなんですよね。ところがそういった形でもう適正化に向けてだったんですよ。だから当然出てくるのは平方北小に他の学区から人数を増やすか、あるいは平方北小をなくして他の学校に行くか、もうそういう方向でしか進むしかないんじゃないかなって

	いうような私はすごく印象を受けましたし、実際に再編検討協議会に出ていた方も、例えば平方北小学校がこの規模で何とかこの地域でいろんな良さがあるこの学校を残す方法、つまり学校を再編するとかって以前にね、そういう方法は取れないだろうかっていう観点がなくなってきてるんですよ。なくなってきてた。確かににお母さん方の中にはいらっしゃいました発言なさってる方が、10 人のクラスではね、大変なんですよっていうふうにおっしゃってました。私も聞きました。それから教員の方が、校務分掌が大変なんですよ、ひとクラスで修学旅行に連れて行くんですよっていう、聞きました。だけれども、そういう教員と子どもの日頃の実践やふれあい、あるいは地域の保護者と子どもたちの触れ合い、もっと言えば、学童なんかも、私平方北小の学童、本当に適正規模だと思うんです。今学童ものすごい数ですよ。人数が子どもたち。その中で平方北小の学童はちょうどいいなあと思って見ているんですね、端から。そういう実際にそこに関わってる方たちの代表が 15 人で構成されてるんですけど決してその代表の意見ではないですよ。今いじめがあると難しいとか、クラス替えができないっていうのもあると思いますが、何かそのところの話し合いがね、本当に掘り下げられてないんですよ。結局はだんだんとこの適正規模にいかに合わせていくかっていう方向に残念ながらなっていてしまって、方向性の素案というのが出ている。だから私今やっとここで意見が言えると思ったんです、傍聴をずっと繰り返して。言いたかったんですよ。校務分掌のことも言いたいこともまだあるんですけど他の方も発言があると思いますので、私の思いは今説明された結論がそういう結論になりましたというのは違和感がありますっていうところです。
司 会	適正規模化が必要であるという話で書いてあるところについてどうですかというご質問ですか。
参 加 者 (小泉住民)	そうです。再編検討協議会の実態の中身です。あと初めから適正規模化ありきのように進められていたんじゃないかという私の疑問です。
司 会	ではその 2 点ですね。

新しい学校 づくり推進 室長	まず適正規模についてですけれど、基本計画の際にアンケートを取りまして、12 学級から 18 学級、各学年 2 クラスから 3 クラスが望ましいという市民の方の意見を多くいただき決定したところでございます。 再編検討協議会の方で適正規模化が必要である、それありきで話が進んでいったのではないかというところでございますけれども、1 回から 9 回まで行う中でそちらのアンケートの結果ですとか情報を素直にお出しして再編検討協議会委員の皆様にお考えというかご意見をいただいたところ、適正規模化が必要であるという結論に至っているというところでございますので、特別導いたというかそのような認識はないといったところでございます。
司 会	その認識があるかといいますとこちらとしても適正規模より小さい学校のメリットデメリットについて協議を図っているというところですので、その形で進めているという認識はないということですね。実際に傍聴に来られていない方もホームページで議事録を公開しておりますので、どういった議論がされていたのかご確認いただければと思います。
参 加 者 (さいたま市在住)	さいたま市の大宮から来ました。私この平方地域でも教員として勤めていまして、そしてまた今現在、上尾市の年金者組合というところの代表をしまして、上尾市に関わっているものなんですけれども、そういう点でまち作りの観点からですね、私はこの計画を見直してほしいと思うんですよ。先ほども話がありましたけれども、今後は平方北小をはじめとして、尾山台小、大石南中学校へ広がっていくということが話されましたけれども、やっぱり学校は、子どもたちはもとより地域の拠点だろうと思います。今日も校庭でスポーツ少年団が活動してますけれども、そういう意味で、高齢者や住民にとっても、台風や水害のときの避難場所、防災の拠点になってるわけですよ。そういうところがなくなると、学校は地域の活動や文化の拠点の場所だろうというふうに思います。そういう意味でいくとやっぱり学校がなくなるということはですね、地域の衰退に繋がるということは明確だろうというふうに思います。そして周りのですね、市町村を見ても、例えば大宮なんですけれども、隣の大宮はですね、全国一で転入率が高いわけですよ、人口増ですよ。それで 3000 人規模の小中

	一貫校が作られようとしたけれど、住民運動、そしてまた入札が不調でストップしています。そしてまた七里地域に新たに学校を作ってますよ。それだけ隣、例えば埼京線で西大宮駅に行きましたけれども、平方の隣ですよ、どんどん人口が増えています。それを前提としますと、やっぱり将来の計画像が、やっぱりこの今までの計画では見えてこないということで、やっぱりそういう意味では、もう1つ言いますと、上尾バイパスがありますけれども、上尾バイパスが2層になってですね、自動車専用道路が広がってくるんですよ。日産UDトラックですね、あそこまでですね、自動車専用道路が東京の方からずっと伸びてきます。工事も進んでいます。そういう意味からいきますとね、この地域はですね、やっぱり人口減を前提としていますけれども、今後の見通しはどういうふうに立てているのか、その辺も考えていただきたい。ですからそういう意味からいうとまち作りの観点っていうのがどういうふうに検討されたのかというのと一つお伺いしたいと思います。 それと2つ目にはですね、周りの市町村、桶川、北本、伊奈町では、学校統廃合の問題は問題として取り上げてないんです。やっぱり現状を見てみますとですね、人口減から言いますと、もっと厳しい状況に上尾よりあるんだろうという思います。ところが、そういうところでも、やっぱり学校は残していこうということで統廃合の検討が進んでないんですよ。そういう意味で言うと、周りの市町村の行政がどうなってるか検討されたのかどうか、お聞きしたいというふうに思います。それで現実には上尾で統廃合があるので、北本に引っ越された方もいらっしゃるんですよ。そういう意味では今後の計画について見直しを求めるとともに、その2点、まち作りの観点があったのかどうか、そしてまた周りの市町村との連携があったのかどうか、その点お聞きしたいと思います。 司 会 ありがとうございます。確認なんですけれど、まち作りの観点で地域の拠点として学校が必要であるという観点があったかということと、西大宮、平方の隣のところで人数が増えている、上尾バイパスが通ることによって、もしかして平方の地区のあたりも住民が増えるというのもちろん考えたのかということ、近隣で北本市等では統廃合は検討していないというところで近隣
--	--

新しい学校 づくり推進 室長	市の状況を見てそこは検討したのかというこの2点でよろしいですか。 人口についてですが、教育委員会といたしましては今後5年間単学級が続くというような住民基本台帳を基に、少しでも早く子どもたちに望ましい学校規模の適正化に向けて進めていくというところがございますので、あくまでも教育環境の改善を重点に置いて検討を進めていったところがございます。2点目の他市の事例につきましましては、学校規模の適正化のための統廃合についての調査を県内61市町村に実施いたしました。統廃合した事例ということで、北本市が令和3年4月に栄小学校が石戸小学校に編入した事例ですとかそういったところは調査研究していったところがございます。
司 会	補足なんですけれども、先ほど北本市栄小の編入につきましましては第5回再編検討協議会にて事例としてご紹介させていただきましたので、もし気になる方いらっしゃいましたら第5回の議事録の確認をお願いいたします。北本市のホームページにも協議の様子が議事録等で掲載されていますので気になる方はそちらのご確認をお願いいたします。
参 加 者 (上野住民)	私は4点で発言したいと思います。 1つは適正規模、12学級以上18学級以下のことについてと、それから学校と地域、廃校による弊害、それから4番目にやっぱり大局を見誤って欲しくないっていうこの4点で発言いたします。よろしいでしょうか。 私は子どもが3人いまして、平方東小とそれから平方小にそれぞれ子どもたちが通いました。適正規模については、上尾市が決めたことであって、これから発展していかなくちゃいけない上尾市なわけです。その中で、国の省令などでは決められていない。それをやっぱり上尾市の基準だけで地域にとっての学校を廃校にしていく、それはやっぱり認められないな、納得できないなというふうに思っております。 それで私は子どもたちを育てながらずっと働いてきましたけれど、それぞれの子どもが学校に通っているところで必ずPTAの役員をやってきました。その中で、学校が地域にとってやっぱり

	なくてはならないコミュニティの核だというふうに思ってます。地域のイベントだとか防災の拠点とか、学校を中心に地域が手を取り合って、子どもの成長を見守ってきたなっていうふうに私は思っています。それなので、やっぱり行事であるとか、地域の学習であるとか、環境整備とか、そういうところについても積極的に繋がってきました。これからも学校を中心に地域が繋がって発展していくことを望んでいます。 それから3番目の廃校による弊害なんですけれど、非常に大きいと思います。まず通学距離がとて長くなります。というのは、やっぱり通学距離が長くなるっていうことは、年間を通じて危険な目に遭うということが非常に多くなると思います。特に特別支援学級の子どもたちにとっては、かなり負担が大きくなるし、その特別支援学級に通わせている保護者の迎えも遠くなりますし、やっぱり仕事をしているっていう方も多いただろう。そういう中では、とても保護者の負担が増えると思います。 それから学校規模の大きいところでの問題なんですけれど、学校の名前をちょっとあげますけど、大石小学校です。保健室がいつも満員です。その方のお孫さんは非常に強い生理痛がある。いつも青ざめている。そういう中で、ベッドに横になるようなこともできず返される。保健室から返されるっていう状況が日常的に続いてるっていうんですね。これってすごく命に関わるようなことなんですよ。そういうことが学校の規模の大きいところで問題になっていて、それに手を打たないっていう方が私は問題だろうというふうに思いますし、大規模校でのいじめだとか暴力だとか不登校っていうのはもう私が言うまでもなく、非常に年々大きくなっていますよね。大規模校こそ問題がたくさんある。困難になっている。それを冷静に判断して行くべきだっていうふうに思います。小さい学校こそ、1人1人が輝いて伸びる教育が実現できるんですよ。私は北海道の田舎町で育ちました。同級生も10人以下でした。でも困ってません。今でも同級生のことを思い浮かべることができます。それからやっぱり教育の目的は何なのかっていうことですよ。やっぱり人格の完成を目指してるんですよ。どんな学校でも。子どもの数を問題にして、やっぱり教育の大局を見失って欲しくないなっていうふうに思います。 大きく言えば、現在の子どもたちが将来の国の方向を決めるぐらい大きなことなんですよ、教育っていうのは。そういうことから
--	--

	いっても、子どもの成長とか発達を見守るっていうのは大人の仕事ですよ。小規模だとか、少人数とかそういうことで廃校にしていくな、そういう過ちは犯して欲しくない、そういうふうに思います。以上です。
司 会	ありがとうございます。主に最初に４点とおっしゃっていただいた通り、１点目としては適正規模についてということですね。国の基準がないにも関わらずそういった形で廃校にしていいいのかということですね。地域のコミュニティとして先ほどの方もおっしゃっていたかと思うんですが、そのところちゃんと大事して欲しいということですね。あと統廃合による影響として通学距離が長くなるといったことについてもちゃんと検討して欲しい、検討していたのかというところ。４つ目として学校規模が大きい学校、１２～１８ 学級を超える学校については問題にはならないのかといった形でよろしかったでしょうか。では回答をお願いします。
新しい学校 づくり推進 室長	１点目の適正規模の基準についてですけれども、先ほども触れさせていただきましたが、学校施設更新計画でのアンケートと、国の決まりではないんですけど、学校教育基本法施行規則におきまして小中学校については １２ 学級から １８ 学級を標準として定めている、但し書きとしまして地域の事情、特別な事情がある場合はこの限りではないという但し書きは入っているところではございますけれども、これらと先ほどのアンケート結果を参考に上尾市として適正規模校は １２ から １８ としたところです。
参 加 者 (瓦葺住民)	今言っているのは文科省が言っている標準規模ですよ。適正とは言っていないですよ。
新しい学校 づくり推進 室長	標準と定めていますというところですね。これを参考にさせていただいたということでございます。 続きまして地域のコミュニティの場として非常に重要であるというところはこれまでもいろいろご意見をいただいているところでございますけれども、繰り返しになりますけど、私共が考えていることといたしましてはある程度の児童数、学校規模をもって児童が社会に出ていく際に社会性を身につけたり、切磋琢磨することができる環境を用意することが最優先だと考えておりま

司 会	す。当然地域のコミュニティですとか、もしも再編となった場合の跡地の利用につきましては市民の方ですとか市全体として検討していくことになりますけど、子どもたちのことを第一に考えての計画ということでご理解していただければと思います。 続きまして、通学距離ですね。通学距離は平均するとだいたい1.5km 以内くらいになるかと思います。それが遠いとなるのかどうなのかというところは今後通学区域審議会ですとか教育委員会の意見も踏まえて最終的に決定していくことになりますので、ご意見として承らせていただければと思います。 あと学校規模が大きいところはどうするのかというところですが、ご意見にございました保健室がいっぱいだというのは、また別問題として、何かしら手を打たないといけないのかなと考えているところがございますけれども、例としていただいた大石小学校につきましても今後児童数が減っていったんだんだん準適正規模校、今 27 クラス、26 クラス程度かと思うんですけど、5～6 年度には 20 クラス程度になると想定されているところがございますので、大規模校の学校再編をするべきかどうなのかというのは、大規模校の現状を踏まえながら慎重に検討していこうかというところがございます。 補足なんですけれど、適正規模についてどのように定めたかに関しましては、一番詳しく書かれているのが上尾市学校施設更新計画基本計画と呼ばれる文書になりまして、こちらの方で3つの方向性を立てております。その方向性2の中で、適正規模に関する記載がございます。そちらに経緯等が詳しく書いてありますので、本日資料として用意がなく大変恐縮ですが、もし気になる方いらっしゃいましたらご確認いただければと思います。 統廃合の影響による通学距離につきましては今回の再編検討協議会でもかなり多く協議されておりまして、第3回～第6回におきまして通学区域の案の中で、だいたいどの辺りに住んでいて、どれくらいの距離になるのかを資料のほうで詳細を記載しておりますので、気になる場合はこちらの方をご覧くださいと思います。 学校規模につきましても 18 学級以上の学校につきまして、人口減少に伴い児童数が減少していくデータについても再編検討協議会で協議しておりまして、そこにつきましても詳細が気になる
------------	--

参 加 者 (東町住民)	方につきましては、ホームページに掲載しておりますのでご確認いただければと思います。 東町に住んでいます。職場が地頭方にあるあらぐさ福祉会というところで障害者の相談支援をやっている関係で、児童から成人、地域の小・中学校のお子さん、あらゆるところから情報が入ってきて相談を受けているという立場で、ちょっとお話をしたいと思います。自分の子どもはもう 20 年近く前に東町小でお世話になったんですけど、そのときは、もう 800 人に迫るので、うちの子が 2 年生だった時はプレハブ校舎だったんですよ。今言っても誰も信じてくれないんですけど。そのプレハブ校舎も当時の校長先生が、10 年も経てばなくなるわよってたんですけど、とんでもない話で、今どんどん家が建っていきまして減らないんですね。今年も 720~30 人いるのかな。ただそこは学童にしまったので校舎が足りないですよ。ぎゅうぎゅうになっていると。大規模の弊害ってそこら辺ですよ。校舎が足らなくて本当は 35 人ぐらいでやれそうだなというところが 40 人になってしまったり、必然的に仕事の仕事なので、障害のお子さんが今すごく増えていて、東町小は今年確か 20 人を超えて支援学級があるか。3 クラスないし 4 クラス。一番多いところは確か 5 クラスぐらいありますよね。そちらの方が詳しいと思いますけれども。だからそういうふう到大規模なところってなっていくてしまうという一つの弊害があって、私自身も大規模には反対で、ちょっとこの計画そのものに無理があるなっていうのは、なぜ特別支援学級のことは触れられてないのか。以前、何年か前の公聴会、平方公民館でやった公聴会でも同じ発言しましたが、そのときはまだ基本計画みたいな特別支援学級の子の教育について 1 ページか 2 ページくらいありましたよね。今回は全く載ってない。なぜ載せないのか。平方北小だって小規模とはいえ、やっぱりそこそこいるわけですよ、支援学級は。そうですね。尾山台小も少ないけどもいます。多いところはもう 30 人に迫る勢いで支援学級があるわけです。そちらがそういう情報を出してくれないから調べたんですけども、この 5 年で、上尾市全体で 100 人増えてます。支援学級に通うお子さんがね。これは支援学級に通っているお子さんだけですから通常級にはもっといますから、通常級のお子さんだって外に飛び出していってしまうお子さんとか、これはちょ
-------------------------	--

っと衝撃の話になるんですけど、オムツが取れない子が通常級に今います。1人ではありません。というような状況の中で、より一層やっぱり少人数で手厚い教育を行わないとそういうお子さんたちが取り残されていくっていうふうになっていくわけですよ。先生1人しかいないわけですから。そこでね、お漏らししちゃったのなんのって言うたら、もう誰が面倒見るのかと。そういうお子さんは支援級に行かされるわけですよ。面倒見切れないから。今そんなふうになってるわけですね。それは先生方の方が知ってるはずなので、そこを抜きにして、規模だけのことで、あっちだこっちだっていうのはやっぱりちょっと無理なんじゃないんですか。今、例えば学習塾だって何だって少人数で、個別でやってるっていうことを売りにしてるわけじゃないですか。だからやっぱり少人数の教育効果はすごくあるわけですよ。今障害の子が通う放課後等デイサービスっていう放課後の療育支援というのがありますけども、そこは1日最大10人です。そこに職員5人ぐらいつくんですよ。だからみんな落ち着いてるんですよ。学童保育所と併用してる子もいるんですけど、学童はもう押し合いへし合いでパニックだらけなんですよ、やっぱりそっちに行くとか落ち着くと、なぜかって言えば手厚いから。そういう手厚い教育をどう保障していくかっていうのは全然この検討から見えてこないんですね。数字だけで話がされているので、やっぱりそこはもっと本当にきちんと考えて欲しいなっていうことと、ちなみに今年は支援学級に行っている子が340人ですね、5年前は240人です。やっぱり100人増えてるんですよ。やっぱりそれだけ大変になってきてるっていうところなので、それを1つの学校でまとめて1クラスじゃない、1校で20人だ30人だって支援学級を抱えてやっていけると私は全然思えないので、そういうお子さんが特別支援学校の高等部に来ると、大変なんですよ。だから特別支援学校もパンクしていますよ、上尾の特別支援学校、かしの木特別支援学校、教室はないし、校舎はないしという状況なので、やっぱりそういうふうに子どもが減ってもそういう困難を抱えたお子さんは増える一方なので、学校を再編するとかそういうことではなくて、一つの学校でどれぐらい手厚くやれるかという考え方ができないんですか。そこをやっぱり考えるのが教育委員会のお仕事だと思います。ということもありますので、やっぱりちょっと無理があると。支援学級の保護者にやっぱ

	り遠くなる人もいますよとか違う学校に行くといろんな問題ありますよとか、個別に 1 人 1 人きちっと話を聞いて欲しいんです。この話知らない保護者なんてたくさんいますから、平方北小に限らず。そういった 1 人 1 人に寄り添うっていうのはそもそも教育基本法で一番大切なところだと素人の私が思っていますので、そういったところからいろんなことを検討していただいた上でどうするのかっていうのを決めてほしいんです。障害者権利条約というのがあるんですけどもそこに書いてありますが、私達抜きに私達のことをきめないでください。さっきどなたかおっしゃいましたけど、子どもの権利条約も同じですよ。子どもたちに学校がなくなるのか、続くのかっていうところをきちんとやっぱり隠さないで聞いて、そうしないと大人に嘘つかれたってことになりますから、そこら辺も急がないで丁寧に時間をかけてやってほしいですね。そうしないとやっぱりやっちゃったらおしまいになりますから。 子どものことと言えば保育課になりますけども、団地の保育所を全部潰しましたけども、潰してどうなったかっていうと、保育所企業や民間がどんどんできてますけど、結局ね、0、1、2 はどこにも入れません。空きはないです。0、1、2 歳は。空きは民間も含めて全然ない。どっかで 1 箇所あったか、だから、保育所も足りないんですよ。足りないのに潰してて、これで子育てしたい人が来るかっていったら来ませんよ。やっぱりそういうふうにいるんなところから考えて、やっぱりこっちもきちんと充実させる、近くに学校があるというふうにしないと、これから子どもたちが増えないで、年寄りばかりになるなりますので、その辺は障害児の関係で言えば、計画にそもそも載っていないのは、理解ができないです。包み隠さず全部載せて、300 人近い支援が必要なお子さんがあるっていうことも前提の上で進めていかないと本当にやっていけないと思いますのでよろしくお願いします。
司 会	ありがとうございます。主に特別支援学級を含めて考えてくださいといったご意見だったかと思います。
新しい学校 づくり推進 室長	特別支援学級については、学校施設更新計画基本計画には記載させていただいているところですが、特別支援学級につきましては学級編制や教員配置の考え方が通常の学級とは異なること、また

	全ての小中学校に設置することを基本としていることから、学校規模にかかわらず、必要な学級数を確保していくという考えのもと進めております。 もう1点、周知について、こういう再編の方向になっているのを知らない方がいるのではないかと、ご意見があったかと思いますが、周知につきましては、在校生につきましてはさくら連絡網という連絡ツールを用いております。未就学児保護者の方についてはそのようなツールがございませんので、個別に通知をして開催の案内はしたところでございます。以上です。
司 会	大変申し訳ございませんが、お時間となりましたので、次の質問で最後にさせていただきたいと思います。
参 加 者 (上野住民)	時間を過ぎて、再質問で申し訳ないんですけど、私先ほど質問したことで答えていただけてないんですね。 1つ目は、なぜ地域説明会を行われなかったんですかということです。再編検討協議会やりながら並行してやればいいじゃないですか。その方がやっぱりこの参加できない方は、いろんな話聞けていいわけなんです。なぜできなかったっていうのが、回答はありませんでした。 2つ目には、以前も単学級がありましたけど、そのときと今回の状況はどう違うんですかっていう質問したんですけど、それは何か答えていません。 それからもう一つ付け加えますと、上尾市は子どもの意見表明権、これ認めないんですか。決まってからやりますなんていうのは、おかしいと思います。上尾市の市政が問われると思います。これは意見ですけどね、この2つのことについてはどこかで回答してほしいですね。きちんと回答いただけてませんので、以上です。
司 会	回答が必要な点は、説明会をなぜやらなかったのかについてと、今までも単学級があったのに対応をしていなかったことについてでしょうか。
参 加 者 (上野住民)	状況がどう違うのかという点です。

司 会	ちなみになんですけれども、何年ごろのどの学校の話をおっしゃっているのでしょうか。
参 加 者 (上野住民)	平方東小と上平北小です。単学級ありました。
司 会	それは何年ごろのお話ですか。
参 加 者 (上野住民)	1980 年か 90 年か、教育委員会でわかっていると思いますが。私地域の方にね、前もそういう単学級があったじゃないの、あのときやらないで、なんで今回やるのっていう、そういうことを聞かれて、私も答えられなくて、そういうことでお聞きしてるんで、そのときと状況がどう違うのかってことを教えていただきたいと思います。
司 会	1980 年ごろの平方東小と上平北小の状況が今と何が違うのかということと、地域説明会のことですね。
新しい学校 づくり推進 室長	地域説明会がなぜ行われなかったのかについては、市側の考えになってしまっていますが、市として改めてご説明する準備が整ったのが、今の段階であるということになります。過去に単学級があったのにその時と何が違うのかというところでございますけれども、手前どもの学校施設更新計画として基準を明確に定めたのが令和 5 年度でございましたので、そこから計画をスタートしたというところが実態でございます。
司 会	申し訳ございませんが、お時間になってしまいました。
参 加 者 (瓦葺住民)	まだ答えていないのが、先ほどの質問で特別支援学級がものすごく大規模になっていて、大きな困難がでるのにどうなんですかっていう話を、計画では学校規模に関わらず特別支援学級については、手当てしていくと決まっていますっていう話ですよ。そうじゃなくて、大きくなるってことについてどうなんですか聞いてるのでそれに対してちゃんと答えて欲しいです。
司 会	ちなみに補足でお伺いしたいのですけれども、特別支援学級が大

参 加 者 (東町住民)	規模になるっていうのはクラス数が増えるということでもいいんですか。1つの学校の中に特別支援級のクラスが5つ6つできるということが大変なのではないかということによろしいですか。 私の子どもが上尾中に行ったときは31人いて、支援学級だけです。5クラス、実質6クラスあったのかな。子どもに交流とかあったのかって聞いたら1回もない。人数が多いのにそんなことができるかって言われてしまったっていうところで、やっぱり規模が大きくなると、そういったことがおざなりになるというが、小さければ行事も一緒にやるっていうふうなところで、今上尾南高校に上尾特別支援学校の分校というのがあるんですね、校舎お借りしても増えすぎちゃって、そこは行事も一緒にやってるし部活動もやってるし、本当にインクルーシブだなというふうに思ったんですけども、ある東部の小学校は30人超えていてもうめちゃくちゃですよね。階段下で大騒ぎしてる子は授業中にいっぱいいますし、教頭先生だって見回りで、電話しても繋がらないっていうこともしょっちゅうありますし、そういうふうな弊害はいっぱい出てくるわけですよ。そうするとやっぱり全部が理解してるわけじゃないから、何でああいう子がいるんだとか、近所からもなんだ、あれはっていうのが、あるわけですよ。そういったことが。やっぱりそういったことを一つ一つ解決していくために何が必要なのか、統廃合でそれが解決するんだったらいいですけど、絶対それはないですから。それはもう自信を持って、確信を持って言えますので。やっぱり丁寧に見ていくには小さな規模で静かにやれるようなところがないと、そういう子どもたちはなかなか落ち着いていかないっていうのは、実際のところではありますよね。8人で先生1人ですよ。9人以上になれば2クラス3クラスと分けていくわけですけど、やっぱり発達障害系の困難なお子さんがたくさんいるので、どうしても外に出てってしまうとか45分座ってられないとか、寝転がるとか唾を吐くとかいろいろあるわけですよ。通常級にもそういうお子さんたくさんいます。そういうお子さんをきちっと見るのに35人40人ってクラスでいいのかっていうところを、やっぱり現場ときちんと議論をしていただかないと、残念ながらちょっと厄介払いで特別支援学級に行くとか、特別支援学校に戻されたっていう親御さんもいる
-------------------------	--

	んですね。でもおとなしくなってきたらいいんですけども、やっぱり支援学級や通級がそういった場合に位置づけされてしまってるっていうこと自体も問題ですし、そういう議論はここでは全然出てこないですよ。ただやっぱりそれはまずいと思いますよ。その規模だけでそれであなたこっち行け、あっち行けって。子どものことに1人1人に寄り添ってないじゃないですか、全然。そこは少ない人数でなるべく手厚い配置を、先生今いないんでしょうから、手厚い配置で、1人1人に寄り添うようなことをしていかなければ、それは無理ですよ。大規模になっている小学校を月曜日にでも見に行っていたらどれぐらい大変な事になってるかっていうのは私が言わなくたって分かっていると思うんですけども。だからそこら辺をやっぱりちゃんと一つ一つ解決して行って、その上で統廃合でもいいんだとかっていうことになるのであればいいんですけど、そこは全然抜け落ちているので、ちゃんとしてほしいなということをお願いしたいと思います。通常級だっていうのは本当にさっき言ったようにオムツ取れてない子もいるわけですから、やっぱりそこらをきちんと見ていかないといけないんじゃないかと思いますけど。だからそこをよく考えていただきたいなと思いますので、支援学級の子がやっぱりたくさん増えて行ってクラスも増えていくと教室も足らなくなるし、先生も足らなくなるしっていうのもあるわけですから、支援学級の大規模化というのも問題になりますから。先生いないでしょそんなに実際、大規模になったって。支援学級だって先生1人でやれないじゃないですか。そうやって排泄ができない子もいれば、ご飯食べられない子もいるし。野菜を見れば逃げ出しちゃう子がいるわけですから。それを先生1人でやれるのかって言うところですよ。小規模化して、ちょっと空いた先生が手伝いに入るとかしないと私は厳しいと思いますので、5年後、10年後本当に大丈夫なのかこの国はというふうに思っています。時間を過ぎてしまい申し訳ございません。
司 会	特別支援学級も大規模になっているところがあるという中で、学校再編の話に関しては、特別支援学級をおざなりにするわけではないですが、学校施設更新計画基本計画にも記載しておりますが、通常級を基本とした検討になっているというところですね。

参 加 者 (瓦葺住民)	これは平方北小学校の素案なんですよ。なぜ検討の中に触れられてないんですかということです。
参 加 者 (東町住民)	特別支援学校のこと何も書いてないですよ。
司 会	再編によって特別支援学級にも影響があるということもちゃんと検討して欲しいということですね。
参 加 者 (東町住民)	問題も含めて出してもらわないと、どうするのかっていうことで。当事者の親御さんたちは何も載っていないのでは、うちの子はそういう子だから外されたのかなと思ってしまいます。それでそういう相談が私のところへ来るわけです。
新しい学校 づくり推進 室長	今回素案をお示しして様々なご意見をいただくという場ですので、大変貴重なご意見ですし、当然おざなりにしてはいけないことですので参考にさせていただき、今後検討させていただければと思います。
司 会	誠に申し訳ございませんが、お時間となりましたので、質疑応答を終了させていただきます。 以上をもちまして平方北小学校再編に係る説明会を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。